





免角  
共

印











一ふらうるふらんこをまむ其撰なることこの  
 き裁するもわもくし松鷲春の可繼金針籠  
 度と申ん其句くは家鄰林乃良材  
 ことの海濱よ流るあまをくし其撰るあり  
 にふれむふやうせいのこののあふりく  
 うり乃閑乃名もくくはあやうくし  
 ことらをもくしふらうるふらんこをまむ

西中之秋

平安院道立歳

後あり 三

春之部

等持院寓在

えらぬ草花のよ友島 名波  
 名のきよよおあやうは伊代のも 栄阿  
 大雪乃ものぬきや乃くも 九圭  
 ままあかこ二口の門乃ゆふれ 柳女  
 者自らくくあくゆりぬまらうも 月居  
 何老のつふ伊安のゆりや門鏡 白砧  
 年終りしすけれゆりの花を流り 子東  
 離落 堂や障まに流るもき乃く色 万客  
 うくひすのあつらうとするや小あうら 蕪村



うしろのめきやうる花梅り島 道立  
きりやのつゆふもろきうゆ 几董  
うしろのつゆふもろきうゆ 蓼太  
里坊うしろやみんじ凡中 名波

歌者あ春色

いうのほり都のやうる尾りか 伝華 霞東  
とらくもけく 飛や一風中 一鼠  
耕や きと 一 一 一 一 蕪村  
耕や と と と と と 大魯  
古く と と と と と 岸山  
うしろのや と と と と と 移竹

淡あけ 四

火とせい と と と と と 曉臺  
院 と と と と と 九湖  
うしろのや と と と と と 大石士喬

画賛

夫半の梅は女う局 幾董  
八う と と と と と と 正元  
つ と と と と と と 梅  
美 と と と と と と キ董  
り と と と と と と 二桺  
あ と と と と と と 移竹  
白 と と と と と と 羅川



明きき啼て寂き蛙うね十六志慶  
 五く飛くくわのたさぬ蛙うね、是道  
 橋乃交のたせりて餘さか十三賀瑞  
 松風ももれりものし暖り十一福丸  
 表町中夢えんまう田子賣、文雅  
 小昼竹まうち中乃鶴乃夢十五五周  
 ありふとまかし  
 町ありく鹿乃春うー孫有 雷夫  
 ようのよも傾く月や連所 名波  
 長とまに伏えの芝みまひり 田福  
 裁賣乃よまぬとね中まのゆ キ董

漢字五

よろれやちんちんくく里乃あ五家足  
 けらうーのふちる塚乃十三車蟻  
 信風や夕月うけし小紙飛六弄我  
 葉いつまて方をとら門の小紙及、芙蓉花  
 人の先づの習いよもあはさ  
 指もあゝぬあふりまうり水 無腸  
 春日晩聖  
 口へさるし帰うくそさるもの水 キ董  
 梅肌あゝる群れうねりや 方客  
 田螺う家童う菊焼たて 白砧  
 小籠乃酒のそつれあふよ 龜郷



小舟より秋を催もよるの月  
 蛭蚓音とあく門のせうら  
 駕昇にこも張るわを訪せむ  
 まじりたりなりさる傾城の虫  
 物の殿をまを控んといふる丸か  
 神谷乃若り一む羽一に  
 まらり等なしくさくこもを遠  
 世のこもやき秋日のあまれ  
 傳くまの平氏の公に太刀をま  
 集りもわさる奇しむら  
 道つれの侍傳とさるむの陰

九湖  
 竹裡  
 路曳  
 春蛙  
 左繡  
 湖  
 客  
 砧  
 々  
 董  
 瓢子

後  
 六

温泉勅をくつさきカ乃さ  
 出智りの名所も月れ為る  
 轍り一産△之賣乃町  
 時くく溜らひうさるさるの  
 解ふさくアアの又彼らん  
 漸そそさりの林雲さるさ  
 夕をささるさ森乃原風  
 ちりもせさる種の間原を  
 ちりも憂ささる辛子産書  
 余はよ國成もさるく抱と  
 色さるささるお良乃月

優才  
 嵐甲  
 石友  
 雷夫  
 曳  
 裡  
 繡  
 蛙  
 客  
 砧  
 々







表楓のうらつき  
 画工とよみくも去り  
 夏飯の老のこゝろ  
 とも井と汲有乃  
 垣中くし小竹と  
 永キ味乃市思  
 花是るもあゆみ  
 雛まけらしくと  
 兄乃傳りまき  
 馬堀の表強き  
 吹きと物音を  
 月、キ、月、キ、月、キ、月、キ、月、キ、月、キ、月、キ、月

後  
八

アト解ひて机乃  
 曉けくもよき  
 燈あそ松よ依  
 一人乃母持て  
 公事ふ給しと  
 冷酒とあゆみ  
 やりてうきや  
 十にこゝろ小  
 是れあまふ乃  
 中より一磨  
 二あつらひ  
 月、キ、月、キ、月、キ、月、キ、月、キ、月、キ、月、キ、月



酒肴子獨更り窓の十月  
むく紐くく白氏又集  
らくうけ小町う帰の名ととん  
淡茅うとくふま乃ま枕

○  
家ちの種くあそひ夕ま  
得は乃きそるまを白鳥邦在  
蝶夢

春の夕

古まより陽をと踏山流小  
あくくみふまも更りまま六  
焼くもまもましまのまもま  
大魯  
白堂  
キ董

淡竹九

けらくく温盤うけくまさ  
移らん今市と野の種れ市に入  
細入ぬ海の風入る彼岸小  
十半班女う围乃香うわ  
傾端も廊まりの莖うま  
火の強て風のくく焼せ小  
わらあ書渡で梅運ふ秋花  
窓乃月垂くる猫乃新あじし  
移り着し音してまぬ猫  
重三  
家くしや雄まも鳴小豆飯

樹鳳  
守一  
霞夫  
亀友  
竹裡  
長圃  
御風  
石友  
几董  
移竹



らん 離や花の波ある娘の子  
あらし山やよ日あけしほれり  
山あらし母波の風あらし  
児つねてとんばにやうり帽子ゆ  
花とんば人の枝より曇つけん  
原より波せける中ふ乃山

暮春

おなうらうまれくまそ使りあふ  
にわらの雪りふくまもあらん  
ゆきまや探者と恨む奇のこ  
ゆきまのまうらうわて仕舞なり

左緒

嵐甲

雅因

太祇

移竹

凡律

樗良

我則

蕪村

青蘿

ややとち旅せしこり一 秋の夜  
園のまに積まうのまのなゆが  
うらうらやううされまうや侍る

鷺喬

几董

麥水

母の市ころふら

酒屋よりやうらうら

こらうら向う流るる女茶白し

自笑

あや櫛や酒賣家のとられ白

キ董

お白よ躰端や襟のまうら

正白

ア一 笑ぬ土うさき岩の間

集喬

葉のまにむの迫つくふちりか

士巧

あはれ花やうのよあふこよ山

太祇



暮乃しも中月へあり日ハ西  
 山ふさぎく 湾うきくもり  
 流し舟酒懐をくまらぬて  
 岸園うへとけあきとくも  
 膝差をこくくふれいも和院  
 簑着るくつる雪乃明かの  
 仁あると小ねり里や鏡うら  
 華よふ人乃馬獲きけり  
 ふきくくは高麗うねとせうん  
 むよふあきとやうて終るもれ

蕪村 櫻良 几董 村 良 董 村 良 董 村 良 董 村 良

尺ハの誓なくらりとさひあそ  
 織とくくも公乃 觸  
 早稲刈とんぬ稲も得るも  
 天丸のつくくあきとら乃杖  
 門あ乃舟らた出ぬ内のみ  
 才みの作ぬいよた衣きて  
 花の中さ中の流れりあひぬ  
 辛舞花のすよ乃くもるむも  
 永よりや病治の酒度くも  
 くのり乃道きくくもせう  
 古々のまふよくくさくもけ

良 董 村 良 董 村 良 董 村 良 董 村 良 董



まろ大狩乃新まろ 力に  
酒一斗牡丹乃園まろ 良村  
日へ赫まろ 佳まろ 董  
まろまろ 管院まろ 出ん  
豆腐まろ 飽まろ 良村

夏之部

都乃新まろ 都乃新まろ 蕪村  
けきまろ 女ねのく 士朗  
まろ 門とまろ 規 坡反

長安戸子規一聲

後より士

わききん 都乃新まろ 暁堂

詩公まろ

けきまろ 鴨行細ぬまろ 几董  
まろ 老乃化新まろ 太祇  
まろ 律まろ 可重  
まろ のるまろ 正名  
まろ 人の園まろ 牛董  
まろ のまろ 士川  
まろ まろ 双魚  
まろ 月居  
まろ 雲乃 五雲







旅行

蚊やり大かよる者も取落れり  
 路曳  
 晴りしうかよ遠入の蚊やりし  
 普立  
 ぬかり大の蚊しつれあるさうれ  
 管鳥  
 蚊やり大か勤とくまら園ふら  
 五晴  
 脊戸へ虫さしつれぬ蚊のさき  
 正名  
 流り子そ太刀くけ合書流の日  
 大魯  
 湖をよ横り下り乃横つて申  
 南雅  
 しくさた乃んあさよ無ちか  
 袖  
 月ちしよん縄ましくく鶴舟うか  
 鳴鳳  
 机籍乃無き流る子御あ  
 李康

漢あり 十四

ともろく冠あそろしを若縄少  
 多少  
 川風や若縄つろし小よのそ  
 キ董

任吉仲田極

早乙女やふれも神乃きんし  
 東瓦  
 子乙女市胡流山小田のちのん  
 瓢子  
 ちししく小あさつてむ杜鶴むか  
 志慶

夕殿号飛思流茲

ちししくあふれ結りしとるさうら  
 キ董  
 流りしや層れき乃流もか  
 月溪  
 新さしきと流ししちししくか  
 李溪  
 弁ししくは流ししちししくか  
 車蟻







ひそそはせは舞乃むの法  
 味りあつりの月ありやうー  
 狼乃旅人あやしの杖更で  
 弓矢とさくむふるたさのさ  
 花咲て庭乃るぬ梅うらうま  
 奥あるけるれ星あさうー  
 迷き口を歌きしとあさる  
 月け使りふたさふさうー  
 別法乃酒よ境のゆくらん  
 燭とてさく然さ一光  
 新ハ既羽るさうさ坊乃憲

池 池 池 池 池 池 池 池 池 池

後あり  
 十六

意無ふとあくさやうー  
 桑叶の秋の秋とも思う  
 うれさくさく 橋と籠ー  
 塙汰乃うさく門の夕月夜  
 棺と送る 船や乃 露  
 馬整ひさ下に曲さる白ひあ  
 過泉乃今より 葉さーつ  
 限ある日ぬも積る船香也  
 事傳りさる 波治うは連繩  
 按素使の才をくささうー  
 利根よ入舌に雪解の水

池 池 池 池 池 池 池 池 池 池



ふつふつと暮るりおのめはるそ  
書居りし中むさ中のみま  
キ 華

○

あやこつよの建てる異なりぬ  
肌くは女の罪乃あつとさか  
あつとあつと油しり木の呻い  
異きりふ飽し前子の暮るぬ  
ぬしのあつと勝あつとあつとぬ  
こつとあつとあつとあつとあつと  
夏川や流るるものあつとあつと  
門風りし中むさ中のみま  
既白

後あり 十七

飽足らぬ女こつとあつとあつと  
筆のあつとあつとあつとあつと  
施米とるりと違へぬあつとあつと  
原のあつとあつとあつとあつと  
春のあつとあつとあつとあつと  
うのあつとあつとあつとあつと  
原のあつとあつとあつとあつと  
下のあつとあつとあつとあつと  
夕のあつとあつとあつとあつと  
白雨や落るるあつとあつと  
太抵

警喬 名波 自笑 美角 左彦 名波 雨谷 樽良 蕪村 附鳳 太抵



白面一跡くもあし、その峰  
旅の着し一畑んにわやせし家  
涌くる田毎乃くちや雪の峰  
西遠一入りふらふ雪乃るひ  
雪の峰一雪をきよとあれり  
とましくくく對し

露の雪一雪のまじりく雪の  
森あるくく一雪の遠き跡  
念ものあつらひし松とやとん  
くく一の刀はくく雪のあし  
適し乃一松と雪の月くて

正白

キ董

子史

我則

亀友

霞東

几董

大魯

東

魯

後あり六

涌る 静と油と舟と  
みしころや霧波の相撲らけり  
夏は産くし着くくうくし  
美人乃消る中た孕みつ  
くつは横川のそよめく人  
雨とくち風とをわくく雪いつと  
珠おけけ魁乃ねくく母て啼  
紫の産も百日あやりほあれ  
系みのそ乃まきい羽けの  
鳥くく佛くくもまよと  
ちくくしちく名の標と構ム

東

魯

東

魯

東

魯

東

董

東

董

東



委せしとちひし日より侍所の月  
 あつて肩よりひらきし風  
 流るる夕の小枝あふくも  
 隣りしひよ雪隠乃ち登  
 兄才う園とちる其ぬい  
 三年うりし老乃蹇  
 史記儀を携ちし酒とすむ  
 かけしとあつる母のまかり  
 小衣中ふ一声考乃ちやれ  
 紺色う着戸の極乃高梨  
 此頃の月さくさくききむ白  
 東 董 魯 東 董 魯 東 董 魯 東 董 魯

後  
 九

鳥余はふくく娘とせむ  
 於その園も人のあひしら  
 宗有乃侍し月の名うと  
 芋嘗つてそのね弁と偏れり  
 村のまうり乃道造り在る  
 いくせして形せよ行基焼  
 あねとうひまの羽さ  
 解其角花んの庵にたせし  
 一申る篇英雄のま  
 魯 董 東 魯 董 東 魯 董 魯 董 魯

○



今もあつて一日九圭老人とてあふり  
にも入つて兼國言ふ遊ひなるふゆのそらと  
侍りし御言ふと及ひなちりし御の客と  
あつて厨へくもとせりしゆふ袖の舞り  
白ひもちりしゆふもまよふゆふのたふ  
ゆふもあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

遊あつてしゆふのゆふも縁あつてと 九圭

あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

二柳菴のむしりしゆりに老より張張せ  
乃ちあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

其さうりたる入侍りしゆり  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

九圭  
二柳



皆り葦葉一々一執そらひつゝ  
 梨葉のいづれもあつた月不更らん  
 されは陰うたゝる府拾へて  
 人徳の序法もくつと路別る  
 由りや路へうさひきぬうた  
 と食ふた園へ遊女の考えて  
 起所志けくかゝる鳥集  
 白州の無敵うたあやも  
 うつりとはらぐ井よの山吹  
 そいれ鶺鴒の尾乃つそは  
 らくちうたゝるに善善法に

二柳、董、拈、董、拈、董、拈、董

月掛うたや葉の酒漏ん  
 ころもくはらる一す乃結  
 にあつた様へ中し花の伝説  
 歌うたの道家田家やさき  
 者うたのいつふ程隠すき  
 路へはらる一葉や絶る

柳、董、拈、董、拈、董

畧

秋之部

園とありて程ゆりうた早はを  
 毎のまはれあつても早入一葉は  
 君とくち只一とくつて天乃川

道立、亀丸、万容







既乃きさの血りけけ  
 真つきの数しせまる  
 あり刃の欠入もゆる  
 ちりしと弁ふさのま  
 多和田の流り鴨行  
 百姓のゆり深とあ  
 ときさうしと齒の白  
 ういひひちりひひ  
 圃まのうにら  
 有るもささ  
 大石もささ

キ 角 定 角 定 角 定 角 定 角 定 角 定 角

子修ふきさるふ  
 義はさる人の年  
 ちる乃きさる  
 せうしと弁ふ  
 多和田の流り  
 百姓のゆり  
 ときさうし  
 ういひひちり  
 圃まのうに  
 有るもささ  
 大石もささ

キ 角 定 角 定 角 定 角 定 角 定 角 定 角 定 角











立秋

秋の風もきよなるもみぢの葉も

千代尼

雨ふるやまふもねつづき日くかり

斗拙

つるひの身に冷しふ体も森か

舞岡

無数のつるひもさきより曇る

斗喙

嵐尾草や身にくららばるるは

暁臺

ありねるや麻本はるのまじり

也有

おのゝそとをく首のしるは

いらふに引掛はるるもさふ

二柳

草一のまじりくもあはく人乃と

一草

あはらふやもさきもさき下

龜友

瘴落し初る清し故心のか

千董

ぬりけふもさきもさきものまじり

無腸

さきもさきもさきもさきものまじり

几董

ひくもさきもさきもさきものまじり

蕪村

ねりさきもさきも

ふに神もさきもさきもさきものまじり

斗文

うたのよもさきもさきもさきものまじり

百池

一葉つゝ闇もさきもさきもさきものまじり

李収

踊るる人のうしろもさきもさきものまじり

定雅

三十とさきもさきもさきもさきものまじり

道立



踏こつて四十と数へぬ相撲丸  
 引船子粒をふやうとみちり  
 縁はらやうりふとやう角力外  
 やうらふくふゆわ相撲  
 重うらの角力にせりうつのも  
 負やうき角力をと相撲丸  
 是とせらるこけりてひく相撲丸  
 下きゆすしよまはりし  
 雨のりやもれ合ふる女帯ふ  
 憶鬼貫  
 花のりやもれ合ふる女帯ふ  
 芙蓉花

初こことやう夕ぼす、義う南  
 ろし、もてふう神とてふ  
 利装のく  
 糸ふしあまふちのそあつ穂  
 秋の杖のうらむし人とも  
 夕あふ穂やうま、杖乃京  
 糸の穂も、も糸のふ糸糸  
 小車乃花と伸しよた帯り  
 糸まきし、ちまふし、みか  
 糸の穂も、も糸のふ糸糸  
 一日乃糸も、も糸のふ糸糸

霞東  
 家足  
 賀瑞  
 樽良  
 美角  
 稀聲  
 東壺  
 茶洲  
 桐雨



中し酒よもささやあては本権りふ 正白  
 貴人乃人んささや本権垣 路曳  
 やつれ其やらささやささや 竹裡  
 本縁より入る行ぬの口より申 霞夫  
 杖のやう流しはささやに口より申 <sup>ナコヤ</sup> 亞満  
 多の州より入るやうやうのゆく 眉山  
 行も道色  
 エミしは限りはあもへ花やんが 士川  
 花やんがやんがのむらさきのささやを 白堂  
 ぶかきささやの酒よも投らん キ董  
 あ焚くささやの遠よのささや舟 蕪村

利酒の解つてささやの市 <sup>トヤ</sup> 卧尖  
 又う解あ乃新酒はささや 名波  
 入口はと縁の口や魚乃店 <sup>オ</sup> 喜水  
 靴はひさささやささや 舊国

郊外

半唄のまよささやのゆ 移竹  
 振らささやの縁よりあはの端 <sup>トヤ</sup> 桃喬  
 酒ささやささやささやのゆ し総  
 舟のゆささやに船とんけささや 蓼太  
 舟はささやささやささやのささや 一鼠  
 戸口より人新ささやささやのささや 青蘿







二つとくく人乃らん巾被うく  
のこつふふふふふふふふふふ  
雨ふふふふふふふふふふ  
二とくく人のきききききききき  
のこつしてふふふふふふふふ

生佛

名波

野菊

月溪

几董

旅中佳句

馬の脊乃るまよにをりきききき  
をふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
其中よ白きふふふふふふ  
佛壇に十日の菊乃ふふふふ

移竹

几董

月居

蝶夢

後あり 三

鶴乃る一氣のつくや持ぬき  
けいふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
倣老杜持衣

御爪

徳野

文皮

大魯

菊尹

鳴鳳

春蛙

正白

キ董

蕪村

ふふふふふふふふふふ  
くのかつふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ















紅圍の足につらつた路の中  
 關ち乃ゆつてこきは中りか  
 牛羹のまふりよきる歌の中  
 籠ふりき山神の下けを衣うか  
 残子思しこのやうな老女か  
 若くしてはもよる残衣か

無心無佛

こわくもく乃付きさうりあしなり  
 おうじや川中もは次はららば  
 風乃志きりふ暮か入日か  
 風や松一本あれの松の風

キ董

山石

東季

乙総

管鳥

山肆

一胤

几圭

百他

志度

残夢

後少行 三十四

こわくやゆるり石地花  
 用や日も無り雪もあらしごと

あつふふよあつ

龜々

樗良

花平や紅生衣のゆる老のま  
 越のきや岸のちちうく人乃白

几董

霞夫

わのまひよときわや岸の青  
 埋火中両岸よ残る風の音

鷺喬

百非

炭と川かアゆるまなくらう那  
 中月既臣

名波

こわくはゆるり  
 一花よははのつらあらし

子曳

東毛







ぐしなまきろふしそかろえ  
 力にぬれて暮の夢秋らくく  
 加村のそつ物の糸と地を引に  
 龍眼ある堂つき二人宿り  
 罪もふかふか紙の巻に  
 龍慶とつよまの世にふる西の星  
 信入因との一大幸きく  
 花のそつ横川の客を離れ  
 ぐしなまきろふしそかろえ

龍眼ある堂つき二人宿り  
 罪もふかふか紙の巻に  
 龍慶とつよまの世にふる西の星  
 信入因との一大幸きく  
 花のそつ横川の客を離れ

則 董 音 村 則 音 董 音 則

冬夜興

ぐしなまきろふしそかろえ  
 龍眼ある堂つき二人宿り  
 罪もふかふか紙の巻に  
 龍慶とつよまの世にふる西の星  
 信入因との一大幸きく  
 花のそつ横川の客を離れ

ぐしなまきろふしそかろえ  
 龍眼ある堂つき二人宿り  
 罪もふかふか紙の巻に  
 龍慶とつよまの世にふる西の星  
 信入因との一大幸きく  
 花のそつ横川の客を離れ

几董 樗良 业野 范甲 良 董 燕村 斗文 太紙



修り若ふ此杖やうん衣乃雪  
くくそんく鬼うつむうんれりき  
道立

あつちえのけいふせり

雪ふゆきまじりけの腹くたんまわち  
大雅堂

積るほのぬきまじりけ小雪うり  
美角

鮮き魚拾ひたりゆきれ中  
几董

ゆりあつぬ養けひまじりまぬ  
弄我

冬の積月うりうにあつれ  
曉臺

雪くちて雪のえ所いつら  
一音

雪のくれまじりけうきまぬ  
蝶夢

遊竜安寺

雪あつちり白ゆふ入ちのちや  
几董

うき乃らうらまじりぬ口  
布舟

辰ちりきまじりけけのけり  
蕪村

それりやうりて氷るけり  
一崩

切らちやぬの積るほまじり  
自笑

光らりり花積の中けり氷  
三曉

月氷乃月ふりて氷る  
霞東

夜り

松月ほくこけの音ほし鴨の色  
雷夫

序の巻やあらぬ万にふり  
几董

皮剥乃葉んこころ枯れ  
、







四はようそん焚火や冬の月  
石友  
冬本三月骨髄に入存  
几董

那州

ぬししと師走日わやまの吏  
集馬  
ふはよしるる師走の換りか  
キ董  
さ梅や雪のふりくさるる  
蓼太  
さきく今し後りなりふふ  
優才  
あの子に酒ゆきくそそし  
百他  
解き白作きの市ふくゆ  
士喬  
キ董

後ろり 三九

ちうらも穿りしちかりし市  
正名

年ぬをその日

禁庭とある

わしからふきにたかりし日の序り  
袖女  
このまゆ柄を採りふたやよし  
田女

陰平

よひし先ゆく春の化粧うさ  
几董  
しちち老いそくくれを  
蕪村



بسم الله الرحمن الرحيم

الحمد لله الذي هدانا لهذا  
 الذي كنا لنهتدي لولا  
 أن هدانا الله لكوننا  
 من الخاسرين  
 الحمد لله الذي هدانا لهذا  
 الذي كنا لنهتدي لولا  
 أن هدانا الله لكوننا  
 من الخاسرين  
 الحمد لله الذي هدانا لهذا  
 الذي كنا لنهتدي لولا  
 أن هدانا الله لكوننا  
 من الخاسرين

بسم الله الرحمن الرحيم

الحمد لله الذي هدانا لهذا  
 الذي كنا لنهتدي لولا  
 أن هدانا الله لكوننا  
 من الخاسرين  
 الحمد لله الذي هدانا لهذا  
 الذي كنا لنهتدي لولا  
 أن هدانا الله لكوننا  
 من الخاسرين  
 الحمد لله الذي هدانا لهذا  
 الذي كنا لنهتدي لولا  
 أن هدانا الله لكوننا  
 من الخاسرين  
 الحمد لله الذي هدانا لهذا  
 الذي كنا لنهتدي لولا  
 أن هدانا الله لكوننا  
 من الخاسرين







まろやちりー影相くも花乃の  
格相の九も字をりもしー

安永丙申暮十月廿三日

授合

万容  
自砧

授合  
甲二







脇起俳諧春

春況合呂波

曲水巾にぬれぬ若狭の春

唐土使つり来し春

維駒

のころ月山あふやうき春

蕪村

竹乃鼓とあしあつり

田福

原舟漕ぐ男の髪もさかす

豹

三日に根乃月さかす

村

仏さかすも今も春

福

鶯巣くもさかす

豹

さかすはゆきお瑞のさかす

村



行乃僧に眼くらむ家  
 ありぬ意中しく人へ後おし  
 吾妻ふりある奇そくゆふ  
 正うつし刈とうほもなるりき  
 夕日斜み暮一乃けえんそ  
 珠お枕の二百回をばあて  
 舟をるごとくはははの鬼  
 うしりむひしき指乃みちうん  
 ふまへり有乃む晴よ花子  
 亡<sup>キ</sup>妻のよと懐くしぬいほ  
 くらりえんちる音の名いそも

村 福 村 福 福 村 福

ひうしと窓の揚をの網監  
 宮ふくがうり一机せうり言  
 胡蘿蔔の花は咲てもありあへし  
 下福島乃銀あはあふろ  
 入ロイ人峠の是存し  
 隣り一船くきうとちれ受  
 舟料の末、舟しる若しは  
 舟もくた傘も返そりもあき  
 月の青梳や僕も旬<sup>サヒ</sup>にむ  
 表の晴しと州乃表門  
 菊合支六は花のほのあき

福 純子 福 村 福 村 福 福



頭

童 カムロニ

齒

豁 ハナリ

ハナリ

夏三夜様とやうに序純宣  
二十年來洪水もた  
うけし心乃日あに老夫婦  
遠よき心より近よ稚子也

村 約 福 村 約

脇起俳諧夏

卯花や夏依はくろ宇治乃里  
山知くきはきも啼一色  
操返一馬上の古約と歩補一  
名一閑える酒くく一あり

維 約 道 立 我 則

五車 四

研信乃蘇くあつ月乃高  
うく火島乃あつてなつり  
回くく痛の中乃ぬきけ  
聞もはくしや一尼の耳  
次乃同のまゆ一火既消く  
程と射んとふうくあり  
一ト谷ハくか後盛の子孫も  
くく埃くくもくく  
年竹さる人際廻りのほぐれ  
微雨降く心夏腐るの  
ふくくに長くえける新

几 董 執 筆 駒 立 則 董 駒 立 董 則 駒











旅中吟

貝塚乃町へ這入のひらり月 道立

さきく白上融るの口まや秋有 春波

十文巻くしよしのれ行る月 百地

まきの月鶴裂けのくまをけし 素郷

まきりしよ

水山乃解きとくち家の内 赤里

庭中く音や余き乃岩後 召波

嵐追ふや移生々々花と 田福

西のまきりしよあまの梅さへく  
荒をてしよあまの梅さへく  
まきりしよあまの梅さへく

まきりしよあまの梅さへく 蕪村

鶯の子乃は浦まきりしよあまの梅さへく 維駒

まきりしよあまの梅さへく 几董

行旅

まきりしよあまの梅さへく 蓼太

放馬ゆきしよあまの梅さへく 卧央

まきりしよあまの梅さへく 大魯

鳴りや那ハ花月れまきりしよあまの梅さへく 嘯山

嵯峨

垣の芽乃袖口まきりしよあまの梅さへく 竿秋

まきりしよあまの梅さへく 我剛







味苔のまやかきとて海のふじりき 舞岡  
乾味苔やみろくしとみくろ家 川越 麥鴉  
双鳥一先師咲山のきりきり

其枝一のこん乃雪の青り那 社口

新思

古よもあ古今のらとや他乃也 維駒

ふとさきるかき乃帯やわりのま 湖柙

あうひひく老本の他や花よまき 大石 士巧

桃山懐古

とみろせいこんとてわを他乃花 道立

淡き濃よまろ他くしれ夕ふ 徳野

新汲もや香標ヶ萩一やのま 几董

紫乃片にあけくれくくくく

くもをとりくもくもくんのやう

は然の襟ねものまやね乃る 蕪村

上巳

たろくよれ瓶すてありや雛の鼻 蕪村

雪信う屏風もくくつ雛やうそ 几董

雛乃妻あすの内侍ぬまたり 召波

雨意

白ゆき十方くれ乃らくくく 肯原

ふ入れ川上きり花くく 重厚



才とてもあけや梅乃さる木の向 江戸 陽子  
梅三日四日を忘やあし 仙臺 完山  
山にこの人美しや 維駒

南都

花の露 自笑  
棒突に 太祇  
つま 青峨

四十 几董  
二日 雉庵  
誰 依若  
ほ 不知

又車十

笑 戸一音  
魚 卧央  
く 佳則  
ほ 百池  
誰 鉄僧  
年 正巴

十九 正巴  
り 鉄僧  
り 正巴

笑 几董  
手 毛條  
熱 自珍



よき乃そ音うりぬれ花とつれたり 雪居

養在深閑人未識

川よきと鏡うらむ心ゆりか 成美 <sup>江戸</sup>

そくわぬ醉中の詩うらまきん 几董

ゆきそやみよした琵琶紅抱ころ 蕪村

よき情一む人やなむとゆりまわり 召波

花下に孫白くそ養と情む

紙や鑑書舞うらるるを捻ぐり 蕪村

夏之部

ころもく一先居るんうら 稜竹

酒はくの膝をさぬ更衣 暁臺 <sup>尾陽</sup>

白うらぬ情よ背中ふあまん 蓼太

よきと情むん乃わうら衣 <sup>いせ</sup> 標良

紀路やまふ心の旅 百池

つるうらむと海むらね

古争の月今に沈かり規 青原

みよひあふふふれ 太祇

けききの通衣の袖ハ扇か 青峩

ふゆらもらうらま布糸の子規 維野



曉乃 撫女ら吐血をきき 召波

あふくぬききゆき

岩倉のね女をきき 蕪村

けききけき 待ての糸 几董

よつておれぬ悔きき 大石 士川

谷君とふりきき 僕ら 菱湖

待宵の力に 心きき 絹裕 定雅

短衣中いぬ路くるきき 拍子 蕪村

ききき 鏡国への又きき 之兮

歌はる

経衣や 如飛の白ひの胸うれ 几董

又車十一

寐いそまの悔とほり 出う那 銀獅

一和二和 故をうりき 小戸 春武

流き 中 悔子 透きき 名波

橋や 悔きき 茶とく 老二人 田福

故屋とあて ぬきき 翁う那 大魯

提てけ 牡丹ゆき 凡情水 春坡

懐舊

牡丹折し 又う怒と 大魯

廣る 乃ほきき 天乃一方に 蕪村

鳥散餘花

うたつて 鳥や 心きき 几董











たうへい熱うーあしてう鶴水  
道立  
口乃うをを屋に引きし常うか  
維駒  
飛入常掩うつてても下電くれ  
移竹  
銀うへふたよりあつてくる水  
管鳥

津田系泊

飛量周のちくくーひてりり  
明岸  
船路の劃とと色うける水  
遊史  
風薫る森乃本法やうのき  
文政  
脊戸口に破け流る首蒲水  
又休  
うれふ車にのりあそ  
巨洲  
心いこくちんの時うけくる水  
蕪村

よ敷ーあつてまていふあそ  
義仲寺僧  
都がも入つてあつて信の爲あそり  
沂風  
正まう又とこころーくうわ  
正巴  
うけ去乃舞とさけりて流る水  
召波  
祇園舎や胡丸あそく新色  
超波  
周うりふた店にたれく疎うか  
也有  
浪居て国うー装平は女水  
呂波  
才子ゆくとるほつて戸遊あそ  
維駒  
人皆若を熱

うーはあ思慮り廊に杖の竹  
三セ  
几董  
聡乃中一筋うろやせま



相紅本の栞ふらりし雲峯 是岩

蓮りし流小舟漕ふるりや又 如菊

芭蕉よりほきくこやせ蓮乃雨 杉月

とく執よふ乃らまを福日あり 召波

狗舟りし津俣をせいで蓮んか 維駒

讀李斯傳

厠ふる肩も寄らふ菊の如 几董

都ひくく神工ゆつよ周か 熊三

袖涼二句

汗入る身と佛体とをたか 我則

床涼笠着連歌のたか 燕村

葛水巾願くはむの音よし 道立

首くち巾うりつるまをを丸く 几董

桐園存るる

維明わきの汗うり

筆心乃塵もさしけり 几董

郊か

夏にけられしつらみけし 壹存

寺の花野川あり

こころふらりけりし 五生



脇起俳諧秋

春泥舎召波

栗に抱き蘭より付く氣をく分り  
 三度報おし菴入り永き花  
 走らぬ海乃青字多明子  
 鳥乃中を驚乃らうらうら  
 鶯うらうら序先いふのよき  
 ぬ雪ふらうら一歩走はぬら  
 羽込うら針をうさのゆきうら  
 むけんぬ一従者おくり  
 うら強心同車の平をうた抱き

董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒

そのあし青れ月へおくり  
 片ちよへやこ故きうら秋乃風  
 古きうらそりふきこほり  
 鞆丸ころも楷子れふらうら  
 法師とふづにわ寺の児  
 法切し偽書代と終る虫拂  
 ちる午竹の鼓探うらうら  
 必ひとむる老社うまやうら  
 尸ゆらうらとねらぬら旅  
 ちるうらうらにはたうらうら  
 楫よりぬらと答こけらうら

董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒 董 駒







古々るはらきわしるき  
 屬<sup>カ</sup>へしとむし鳥帽子よりきぬ  
 翔日乃やむりひらつ  
 ねりかき市のもや  
 遊人も女ころそ追うけて  
 熱よ痛もふしきり  
 聲しきと玉珠と痛めん  
 日毎乃母の中ふ水<sup>ヒ</sup>溜す  
 うらむに<sup>ハ</sup>行ぬのふきに<sup>ハ</sup>無<sup>ハ</sup>成<sup>ハ</sup>り  
 堀乃は<sup>ハ</sup>店<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>歩<sup>ハ</sup>ふり<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>家<sup>ハ</sup>  
 高<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>埒<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>仕<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>

池 駒 僧 池 駒 僧 池 駒 僧 也 駒

五章 十九

髪とくけりてあなり青月  
 舟もあまうつら<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>  
 川の口乃あ入のし<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>よ  
 けりし<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>鴨<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>か  
 高<sup>ハ</sup>舞<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>基<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>神<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>き  
 うつ<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>抱<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>膝<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>ら  
 めう<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>音<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ぬ  
 禿<sup>ハ</sup>巻<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>つ<sup>ハ</sup>箱<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>月  
 り<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>け<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>下<sup>ハ</sup>次<sup>ハ</sup>川<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>よ  
 三<sup>ハ</sup>聲<sup>ハ</sup>啼<sup>ハ</sup>つ<sup>ハ</sup>つ<sup>ハ</sup>猿<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>ん  
 や<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>井<sup>ハ</sup>溪<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>語

僧 池 駒 僧 池 駒 僧 池 駒 僧 池 駒



こんきりきあがりし色小風あま  
 才良君乃くくまふさくまふ  
 多きりし自りしうきほりゆりの日  
 横座り付し牛と遊りて  
 天王乃きくあけふりて肥て  
 ぬりしほりし日ふりし  
 ありしうきあけふりて  
 入りのうきあけけりし  
 花守りしうきあけけりし  
 足はりしうきあけけりし

池 僧 駒 池 駒 僧 池 駒 僧 池

五車 二十

秋之部

新よ今秋梧便のま下うりうけむ  
 くらき月のうきあけけりし  
 水あけりしうきあけけりし  
 新良や早しうきあけけりし  
 新良根をさくわくゆじ天門  
 新良けりしうきあけけりし

病起

懶くしふ鬼に言ふりし今秋のね  
 角力あのをさくわくゆじ天門  
 新二日さくわくゆじ天門

蕪村 也好 一差



彩ぬ切菴乃後子あふの他  
傾滅子腕えせり相撲  
几董  
松化

市中

院子や夕るくわてねくふ  
うひあしやあにきき踏  
細腰乃法師下ふ踊り  
魂をとり八千代御所一  
笑てふれ墓のむらりま  
ま  
大魯  
召波  
蕪村  
嵩岡  
菱湖  
湖柳

由井乃戻つて

お露や信やうふ破乃料  
太極

張屋川ふみふ信をこくり  
徳一あふ心田ふ交る為りふ  
二頁  
蕪村

又城邦のあふ武を邦のあふ

あふあやうく一れ徳あにあふ  
尸明中律屋くろくはし  
紀路くも下りれあふ雁孤  
雁宕  
自笑  
蕪村

旅中

川帝や馬や入くく乃音  
霧ころくくろの先中馬の尾  
こらたてこ丹波の船乃片舟  
太極  
几董  
維駒



衣うしけりも酒乃小賣うね大石 士喬  
 峰跡の一院きー 蕎麥乃心 雅因  
 久名をとめて 後秩の月ねん 田福  
 名月や下戸に建てる藏川ん江戸 多虫  
 三平さー  
 院一のちねん 卯乃月 雁宮  
 名月や兔の糞乃あうらう 超波  
 名月のゆき家 朝日やいせうは 百池  
 今さるもふ 新らと月新中 管鳥  
 うさよよそに月修ね明る系 樗良

良夜

名月やさるもいひのちもさねす 嵐山  
 家童らと金あーちりねねの音 鶴英  
 会とて傾城買つちあふ乃夕田京 也竺  
 いつもまると食の聲や秋のくれ 春坡

老懐

去年より又淋しそねねき音 蕪村  
 雑踏の月の明り乃兼忘る系分 青蘿  
 那く皆もろて波の月んうね 維駒  
 飛入の新や元子十之ね 成文  
 きりりしとけ燈よちりほ乃月 二柳  
 いふりふ結るるのちや







探歌とゆて

撰出して淋しき色やも袴袴 鼓舌  
 酒ふたり 餅に木輪の穂並水 左海 吳逸  
 かろしと外田よ 秋の鳴子うさ 昔蕉庵下 松宗  
 明ヶいよと 衣さき 今西戸つらつら 召波  
 稚子の二人 夜一よ 夜三よ 旨原  
 雨ゆら日 和 びききる 夜きき 大魯  
 凶雨の襷うよ 今と衣さき 魚官  
 衣とさきと 小冠者 針より 水枕 蕪村  
 蕪ゆくと 知信 蒼うと 暁臺  
 笑の病とさきと 九月 懈

昔の秋もも子ひ子 儀 袴中ふ 月央  
 四五ふ乃きぬ 裁 袴と 骨乃 林 湖岳  
 り 林や 蹴 後 の 塚と 雲 木 葉 か 養水  
 推 葉の とも 丸く 衣 衣 ぶ 乃 雲 維駒  
 ぬく 乃 乃 乃

本骨 袴ひていさ 月央 月央 蕪村

九月 衣の 須戸の 袴

さうしと 袴ひていさ 月央 須戸の 秋 几董

衣に ねき 會 衣 九月 衣 雁名

閑居

小 綱 買 衣 衣 の 夜 と 衣 教 衣 衣 几董



冬之部

雪乃一のひかりきや夕一これ  
初一これひかりとふとひかり  
そひかりも儒一淋き羽織り  
そひかりもひかり乃一雪乃  
そひかりもひかり一雪乃

素簷

ゆきやゆきやゆきやゆき  
傘一ひかりとふとひかり  
そひかりもひかり一雪乃  
門前のひかりとふとひかり

太袂

千代左

琴堂

帰厚

几董

召波

素文

蓼太

月居

五車 二十五

鹿登つて人ひかりしそこも  
旅とふとふとふとふとふと  
冬寒熱先風乃眼と村

道立

正巴

蕪村

負郭

四ッ谷う馬糞のつく枯所  
又或日扇きひひひひひ  
そひかりもひかりとふと  
そひかりもひかりとふと  
そひかりもひかりとふと  
そひかりもひかりとふと

青峩

曉臺

蕪村

雪屋

鍊僧

維駒

氷屋名出







馬蹄今らりし雪の滴を  
 雪の中も人きふりふ成にけり  
 越前 梨一  
 ところふや人通る雪の  
 蘭更  
 ところし雪の中りタリ  
 銀獅  
 ところふ雪のけり雪の上  
 之兮  
 美人と雪の雪の雪  
 佛仙  
 雪の戸に立ちけり雪の雪  
 幼雪の上りけり雪の雪  
 几董  
 雪の雪の雪の雪の雪  
 燕村  
 雪の雪の雪の雪の雪  
 燕村

古枝と鶉喰を雪乃くれ  
 其成  
 雪の雪の雪の雪の雪  
 仙臺 奴官  
 雪の雪の雪の雪の雪  
 大魯  
 古観銘  
 純きよの先氷の雪の雪  
 几董  
 雪の雪の雪の雪の雪  
 燕山 茂堂  
 雪の雪の雪の雪の雪  
 古貢  
 雪の雪の雪の雪の雪  
 暮蓼  
 雪の雪の雪の雪の雪  
 春香  
 雪の雪の雪の雪の雪  
 魚赤



羽とあやふ小島のねよふあれ等 斗文

古丘

くろけりし振舞つちや宵月夜 蕪村

さき月によもひり石乃響古小 子曳

とあるまはる蒲園とある小まふ 大石 守明

南宗の負しよまやろ本とら 丹波 月溪

門くくして丘上りたり 丹波 仙魯

けりたり衣借れふとら 官律 奮国

つきんふてきくありぬ 新 敲 官律 路景

旅人へ 續むしけたり 新 官律 佳棠

持してさき西へさたりとら 抑 佳則

五車 二六

あつちやあなあつち 細代 守 士川

古中

ゆきうせしひくく 古中 通助

あつちやあなあつち 古中 名波

年日丁れ肯念者ト 古中 青我

膳八や和尚濁く 古中 雁宕

とら 古中 米屋 佐州

ひと 古中 維駒

争つ 古中 文梁

判 古中 太禰

ゆ 古中 蕪村



除夜遊青樓

夕ぐしんやりしう豆と奪ひけり  
あつらき月の梅や一人三十日  
几董 移竹

臨起俳諧冬

冬こもる五車のみたれあやう  
のよりきまわりの鏡うつ月  
郎か何葉やらん燈  
流るす流のふつうさよら  
枝代于一斤よとさくら  
物乃る希り先口と利ク  
維駒 鏡僧 卧天 蕪村 百池

新色のまるとほつたさくら池  
ふらふらさくくもちの翹  
裂やまふらのこゝろのた務  
あまの奪ひけり花もけつきあ  
ちらしき雪降年の伏らん  
小舟結ぬく馬嘯うん  
あつらも權とまのさるる月  
ふらふら酒を胸と病は林  
小もりあまのつらね娘あや  
蕪村あまのけつさくらけり  
ふたあふら五車のまよふの竹  
也好 春坡 正巴 之兮 道立 我則 自笑 佳棠 湖柳 湖岳 几董







拾ひ居きつ旧蔵書の新書とありて其の由り  
初及よ句ととありて其の良材を石とありて一集  
と信書せんとなり予もつゝ其書を採りて其の  
後力と信書採成とありて先人の輝光に信とあり  
功徳見佛用法の結縁ありて一且太紙様竹鹿山  
乃使とにありて教軍の古く再集中ふ出宛して  
凡月花とありて乃つとと紙誦とにありて是自地  
平等乃追善とありて乃つとと紙誦とにありて

春夜樓晋明書

天明三年十一月

善村七部集後編 春夜樓晋明著 近刻

文化六年己巳正月裝紙

中支賣坊行入所

浦井徳右衛門

室町一丁目

平野屋善吉

寺町二丁目

橋屋治右衛門

三條寺町西口

河南儀右衛門

皇都書肆



